

# 審判講習会（車椅子バスケットボール） 参加報告書

平成30年6月10日  
報告者 白石 義人

この度参加しました、審判講習会について報告します。  
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	第18回全国障がい者スポーツ大会中四国ブロック予選会
<b>参加者 (報告者)</b>	白石 義人 (しらいし よしひと)
<b>期 日</b>	平成30年 5月 26日(土) から 平成30年 5月 27日(日)
<b>会 場</b>	コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク鳥取県民体育館
<b>参加者</b>	中四国ブロック審判員総勢16名(愛媛県5名)
<b>報告① 講義</b>	大会審判長増竹昇氏より、選手権3次ラウンドでの大会報告ならびに新競技規則、 現行のマニュアル諸注意等の講義をいただいた。 特に昨年11月に行われた北九州大会での二階堂氏のAOZ報告を受けて、リードは 8秒でエンドラインに到達する旨の共通理解の確認、プレイコーリングガイドライン に照らし合わせたアンスポ、フェイク等の確認、選手権で行われた交代時のプレイヤー 管理の取り組み方等を中心に。
<b>報告② ルールテスト 解説</b>	選手権3次ラウンドで行なわれたルールテストの解説を、参加した白石、川村で説明していった。 ベーシックな問題から新競技規則に追加された条文まで、計20問を挙手制の○×形式でなぞっ ていき、検証していった。特にこれからも出題されそうな惑わすプレーの問題に時間を使い、皆 で考えていただいた。
<b>報告③ ゲーム</b>	日時 5月26日(土)14時00分～ 香川県 対 広島県 割当 CC 白石 義人 (報告者) U1 浜田 恒治 (鳥取 B級) U2 今城 千恵 (愛媛 C級) プレカンファレンスではクルーチーフとして、初めてお会いした方もいるのでマニュアルに ついての共通理解の確認を中心に話をした。特にプライマリーレフリーの責任、間延びするプレ ーにおける2パーソンの捉え方、そして交代の時の有利なポジションの引き継ぎによりトラブ ルとなるのを未然に防ぐなど、新しいマニュアルへのトライを積極的にしていこうと話し合っ

	<p>た。</p> <p>実際のコートでは、それぞれがしっかり捉えられた所とそうじゃない所があり、全体的な判定のバランスが良くなかった所が多々あったため、両ベンチに不信感を与える結果になってしまった。</p> <p>特にセンターが一人で判定しないといけない場面が多く、クルーチーフとしてローテーションを含め3人の協力をもっとしっかりできていればと反省することとなった。</p> <p>ミーティングでは、ベンチ管理のこと、終盤のアンスポのケース等が振り返る議題にあがった。選手が最大限のパフォーマンスができるように、ゲームマネジメントの課題を考えさせられるゲームであった。</p>
<p><b>報告④</b> <b>ゲーム</b></p>	<p>日時 5月27日(日) 13時00分～</p> <p>決勝 高知県 対 岡山県</p> <p>割当 CC 増竹 昇 U1 白石 義人 U2 今城 千恵</p> <p>プレカンファレンスにおいて、クルーチーフの増竹さんよりプライマリー、セカンダリーの確認、バックピック時においての2パーソンの基本的なエリア分割、プレーの場合によってはビッグローテーション、スーパーローテーション等臨機応変な動きが求められるため3人のアイコンタクト、コミュニケーションの重要性、交代やインプレー時の選手管理、終盤のファールゲーム時のアンスポ等、未然に防げることと毅然に対応しなければいけない事の確認をしていただいた。</p> <p>自身久しぶりの決勝であったが、緊張しすぎないように増竹さんや今城さんとよくコミュニケーションをとって、いい気持ちで試合に臨めた。個人的には序盤ファーストコールで無理な位置から判定をしてしまったので、もっとしっかり捉えたものだけを笛にしようと、残りの時間は自分のプライマリーに集中して捉えることができた。</p> <p>ミーティングでは増竹さんより、取り上げたものの中で影響がなかったものもあったのではないかと、振り返るヒントを与えていただいた。より判定力が向上するためによりアドバイスをいただいたと感じた。</p>
<p><b>所感</b></p>	<p>ブロック予選に参加させていただいたのは今回で3回目になります。</p> <p>毎回、自分の成長、仲間の成長を感じながら大会に臨めて、前進を感じることができ、とてもよい経験になっています。昨年度は障スポリハーサル大会として、今治で審査をうけさせていただき、晴れて日本公認として一步を踏み出させていただいた事が、昨日の事のように鮮明に記憶に蘇ってきました。これからどれほど自分が成長できるか、支えていただいた皆様と、あの時の自分に胸を張って答えられるよう、より一層精進していきたいです。ありがとうございました。</p>

# 大会参加報告書

平成30年6月9日  
報告者 今城 千恵

この度参加しました、大会について報告します。  
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	第18回全国障がい者スポーツ大会 中四国ブロック予選会車いすバスケットボール競技
参加者 (報告者)	今城 千恵 (所属カテゴリー)東予 U-12
期 日	平成30年5月26日(土)～平成30年5月27日(日)
会 場	コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク
参加者	中四国車いすバスケットボール連盟審判部 16名
報告1	<p>【講習】 増竹 昇 氏より(アジア・オセアニア予選会での伝達された内容を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ターンオーバーが起これば素早くリードに入り、セットアップポジションで受ける→8秒かけてリードに入る。但しプレイから離れていくのではない。 プレイに遅れないように先行し待つが、行きすぎないようにする。 リード・トレイルの逆サイドにボールが進む時は、ダイレクトにクルーズダウンポジションに行く。但し、その位置からプレイが見えるが、あくまでそこはセンターのプライマリであり、リードはセカンダリー(明らかなもののみ)として対応する。</li><li>○ リードのエンドライン上の動きやタイミング(図による)の説明 身体のアンクルは、ラインに平行→45度にする。</li><li>○ 動きながらのコールはせず、必ず止まる。</li><li>○ クルーのトライアングル<ul style="list-style-type: none"><li>① リードの移動・セットアップポジションからクローズダウンポジション、スキヤニングしながらセットアップポジションで向きを変える(向きを変えてからバックするような動きにはならない)。</li><li>② トレイルはセンターへの準備を開始して、すぐ移動する→ダブルセンターになる。</li><li>③ センターは直ぐに上がるのではなく、リードに引き継ぎが出来てからトレイルの位置に行き、オープンアングル45度でリングに向く。</li></ul></li><li>○ センター→クロスステップでの上がり、移動後は、そこにステイせずに戻る(ダブルトレイル禁止)。オールコートプレス時は、誰とどの位置でボクシングインをかけるかを意識する。(センターラインを意識し過ぎて一番怖いところで重なってしまわないようにする。また、どのタイミングで追い越させるか、引っ張るかを考える。)</li><li>○ クロスコールは禁止</li><li>○ レポート位置、ファールの種類について、また日本選手権大会で行われたルールテストの問題とその解答について</li></ul>

<p>報告2</p>	<p>■ゲーム 日時 5月26日(土)Cコート第2ゲーム 14:00トスアップ 2回戦 香川県 38対41 広島県</p> <p>■割当 R 白石義人 U1 濱田恒治 U2 今城千恵</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター・トレイル・リードそれぞれのプライマリエリアの確認。</li> <li>・ショットクロック・タイムアップ時の担当クルーの確認(オポジット→場合によっては、他クルーがフォローする)</li> <li>・プレイヤーが間延びした時は、変則的なローテーション有りで、対応する(スーパーローテーション等)。</li> <li>・センターが他クルーと2POで対応する場合の確認。</li> <li>・プライマリエリアで起こるプレイに良いアングルからの笛で対応する。</li> <li>・クロスコールをしない。</li> </ul> <p>■ゲーム及び反省</p> <p>午前中の講習内容やプレカンファレンスの内容を意識しながら、ゲームに入った。ローポインターによるスクリーンが、リーガルであるかどうかしっかりと確認し判定する必要があると思った。自分が取り上げた時に、どちらで処理すべきか迷ったものであった。</p> <p>しかし見学者より、そのシチュエーションは、オフェンスの寄りがあったために起こったものではなかったかとの見解があり、見る位置による違い、その大切さについて話し合える事、考える事ができ、良い引出しが出来たと思った。</p> <p>広島県コーチのベンチアピールへのワーニングについての意見も有り、クルーで考えるべきだった。また、リードでの立ち姿で両手の位置を意識して気を付けた方が良いとアドバイスを受けた。</p>
<p>報告3</p>	<p>■ゲーム 日時 5月26日(土)Cコート第4ゲーム 17:00トスアップ 交流戦 徳島県 30対60 香川県</p> <p>■割当 R 川村貴昭 U1今城千恵 U2 田邊大介</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーそれぞれ2ゲーム目でもあり、1ゲーム目の反省より、気を付けていく事を確認。</li> <li>・タイムアップ、ショットクロックの担当確認(オポジット)する。</li> <li>・プライマリへの責任を持ち、クロスコールにならないようにする。</li> </ul> <p>■ゲーム及び反省</p> <p>1 ゲーム目の反省の、良い判定のためにベストの位置、アングルを見つけたいと思った。要らない手の動きによる、悪い立ち姿にならないように意識した。</p> <p>タブレットで録画をしてもらえたので、後で映像確認することができた。シュートファールの責任がどちらにあったのか、また、どこから始まっていて、誰が見るべきだったのかがよくわかった。</p> <p>点差が開いたゲームであっても、接触はあるが影響がなかったり、少なかったり、またプレイが続くものや取り上げなかったものに対して、考え過ぎず素直に吹いた方が良いと思った。両手の位置の悪さは完全には直ってなかった。</p>

<p>報告4</p>	<p>■ゲーム日時 5月27日(日)Aコート第4ゲーム 13:30トスアップ 決勝戦 高知県 29対69 岡山県</p> <p>■割当 R 増竹 昇 U1 白石義人 U2 今城千恵</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主審より、細かくチェック項目を確認した。 コート縦割りのクローズドの責任としてタイムアウト・交替をオポジットが、タイムアップ・ショットクロックを担当する。 交替時におけるプレイヤーの入れ方は、必ずアウトさせてから、インさせる。 タイムアウト後、50秒ブザーで呼び入れができるように、担当ベンチ前に立ち、1分後の0スタートができるように促す。また、タイムアウト時、プレイ再開位置とチームクルーチーフに伝える。</li> <li>・メカニクスなローテーションの確認として、       <ol style="list-style-type: none"> <li>① リードの移動</li> <li>② トレイルがセンターに移動</li> <li>③ センターが受け渡し確認後トレイルへとスムーズに移動(2センターになってよい)</li> </ol> </li> <li>・バックピック等によりクルーが分散した時どこを誰のプライマリとして見ていくかで起こり得る変則的なローテーション(スーパーローテーション等)を確認する。</li> <li>・ライン付近で起こるきわどいバイオレーションは、アイコンタクトで助け合う。</li> <li>・プライマリを確実に守り、ゲームを通して一貫性のある笛にする。</li> </ul> <p>■ゲーム及び反省</p> <p>初めての決勝カードで上級の方とコートに立てることに、多少の緊張感を感じたものの、自分を積極的な笛で表現できるように意識した。</p> <p>ゲーム中、クルーチーフからトレイルから吹いたオフenseのファールを指摘されたが、やはりゲーム後にも他の方よりOF、DFの関係はどうだったかの問われた。プレイの始まりを見落として処理してしまったと思った。また、リードからエリア5のフリースローライン越えて入ってくるプレイに対し取り上げたDFのファールでは、未確認ファールではなかったかと指摘された。これはプレイヤーからもアピールがあった。見る位置、アングルの甘さだと反省した。</p> <p>チーム力の差がはっきり出たゲームとなったが、CCが取り上げた高知へのタイムアウトの不当な請求の仕方に対するオフィシャルワーニング、そして岡山への故意とみなしたOFのフェイクに対するワーニング、相手選手の目の前で手を振る等正当ではないプレイにテクニカルをとるなどいずれも悪いプレイを野放しにすることなく、やり得を防いだ笛など起こり得る事の引出しの多さには、違いを感じるばかりだった。</p>
<p>所感</p>	<p>全国障害者スポーツ大会中四国代表を決める大会であり、どのゲームにも積極的にトライする気持ち通りに吹いたが、車椅子独特な雰囲気の中、選手に納得してもらえる笛を吹くには、もっとルールを正しく理解し、適用しなければならぬと改めて感じた。</p> <p>上級の方と吹けたことでは、1ゲームをクルー3人でまとめ上げる一連の流れや準備内容のつかみ直しやゲーム中の笛や対応・処置の仕方など、自分の未熟さを実感するとともに分かったことが沢山あり、とても良い経験となった。</p> <p>これからも力を付けていけるように努力していきたい。ありがとうございました。</p>